

拒絶理由通知書

特許出願の番号	特願 2 0 0 3 - 2 7 5 0 3 6
起案日	平成 15 年 8 月 26 日
特許庁審査官	郡山 順 8 5 0 2 2 B 0 0
特許出願人代理人	加藤 静富 (外 2 名) 様
適用条文	第 29 条第 2 項

この出願は、次の理由によって拒絶をすべきものである。これについて意見があれば、この通知書の発送の日から 60 日以内に意見書を提出して下さい。

理 由

理由

この出願の下記の請求項に係る発明は、その出願前日本国内又は外国において頒布された下記の刊行物に記載された発明又は電気通信回線を通じて公衆に利用可能となった発明に基いて、その出願前にその発明の属する技術の分野における通常の知識を有する者が容易に発明をすることができたものであるから、特許法第 29 条第 2 項の規定により特許を受けることができない。

記 (引用文献等については引用文献等一覧参照)

(1) 請求項 1、2 に対して、引用文献 1

(2) 請求項 3 に対して、引用文献 1

錘の近傍に釣糸の保護部材である中空管を設けることは引用文献 2、3 に記載されているように周知である。

(3) 請求項 4 に対して、引用文献 1

引用文献 1 には排水溝である水抜穴 9 が記載されている。

(4) 請求項 5 に対して、引用文献 1

引用文献 1 記載の遊び穴 2 から水が流入できると認められる。そして、胴体 1 は、本願発明の蓋に相当する。

(5) 請求項 6 に対して、引用文献 1

隙間を設けない錘が引用文献 4 に記載されているように、この分野において隙間を設けるか否かは当業者が適宜案出し得る設計的事項に過ぎない。

(6) 請求項 7、8 に対して、引用文献 1

係止段部を設けることは、釣りの仕掛けにおいて常道手段である。

(7) 請求項 9 に対して、引用文献 1

より戻しを設けることはこの分野において慣用手段である。

(8) 請求項 10 に対して、引用文献 1

(9) 請求項 11 に対して、引用文献 5

引用文献 5 の基本おもりは 30 号、調整おもりは 10 号を使用し号数は自由に決めて良いと記載されている (【0008】)。

(10) 請求項 12 に対して、引用文献 1 及び 6

引用文献 6 第 3 図 (B) に内部筒部材内に移動自在に挿通した接続釣糸が記載されている。

(11) 請求項 13 に対して、引用文献 1 及び 7

テーパー状に内部筒部材を構成することは引用文献 7 図 1 2 に記載されている。

(12) 請求項 14 に対して、引用文献 1

内部筒部材の先端部と後端部との内端縁及び外端縁を曲面形状に曲げる点について、釣糸が角に当たると切れやすいことは周知であり、曲面を付けることで切断を防ぐことは例示するまでもなく周知の事項である。

引用文献等一覧

1. 実用新案登録第 3041602 号公報
2. 実願昭 59-90068 号 (実開昭 61-4578 号) の願書に最初に添付した明細書及び図面の内容を撮影したマイクロフィルム
3. 実用新案登録第 3093942 号公報
4. 特開 2001-321049 号公報
5. 実願平 5-28634 号 (実開平 6-81275 号) の願書に最初に添付した明細書及び図面の内容を記録した CD-ROM
6. 実願昭 50-99903 号 (実開昭 52-14190 号) の願書に最初に添付した明細書及び図面の内容を撮影したマイクロフィルム
7. 特開平 10-94353 号公報

整理番号 P 1 5 - 0 5 4 2 2 9

発送番号 3 0 3 5 9 8 3/E
発送日 平成 15 年 9 月 2 日

・調査した分野 I P C 第 7 版 A01K95/00
D B 名

・先行技術文献

この先行技術文献調査結果の記録は、拒絶理由を構成するものではない。

この拒絶理由通知の内容に関するお問い合わせ、または面接のご希望がございましたら下記までご連絡下さい。

特許審査第 1 部自然資源 郡山

TEL. 03(3581)1101 内線3236 FAX. 03(3501)0478